

1 教育活動の取組と自己評価

自己評価の基準：【A】十分に達成できた【B】概ね達成できた【C】あまり達成できなかった

I 学習指導

教育活動の目標 と 方策①～⑨ ◎授業力の向上 ◎基礎基本の定着 ◎主体的学習意欲の向上	教育活動の取組と 数値目標（過去3年間の推移）の自己評価
① ICT機器やソフトウェア、一人1台端末を積極的に活用し、生徒が主体的・対話的で深い学びを実践する。 ② 観点別評価に伴い、教材の共通化や評価材料を増やす等、教科全体で指導と評価の一体化を進める。 ③ 全ての科目で授業アンケートを組織的に実施し、生徒の状況に応じて授業を工夫する。	○ICT推進委員会によりICT活用の推進策を講じ、ICT機器やリアテンドットの活用は広がった。 ○校内で統一された観点別評価の基準をもとに、評価結果のばらつきは小さくなった。 ○全科目の授業評価アンケートを実施し、授業担当者にフィードバックを行った。 授業満足度 肯定的評価の割合 85%以上 (87.5⇒84.7⇒82.1) ⇒ 81.9【C】
④ 教員相互の授業見学を各人が学期に1回以上、特に教科内での授業見学を積極的に行い、授業改善を推進する。	○学校全体の回数は目標をクリアした。若手教員の研究授業に参観する教員が増加した。 相互の授業見学 延べ126回以上 (146)⇒183【B】
⑤ 模試を利用し過去の問題に取り組ませるとともに、模試の振り返り指導を行い、基礎基本の定着を図る。教科で模試や生徒の学力状況を分析し、教科として課題を共有し、授業改善に生かす。	○模試の過去問や解答の教員への配布を進路指導部が行い、授業における模試の活用は進んだ。 ○模試の問題分析や詳細の結果分析は、教員個々による差が大きい状況である。
⑥ 英語検定の受験を積極的に推奨し、スコアアップと合格者増加に向けた指導を行う。	○英検を全員受験以外に延べ285名が受験した。授業や放課後の指導、スタディサプリの活用により、2級以上合格者が大幅に増加した。また準2級合格者も120名となった。 英検受験者 延べ700人以上 (127⇒596) ⇒810 英検2級合格者数 40人 (16⇒18⇒34) ⇒52【A】
⑦ スタディサプリやオンライン英会話等を活用するなど、主体的に学ぶ態度と総合的な英語力を育成する。	
⑧ 図書館の利用を高め、ビブリオバトルを組織的に実施し、読書活動を推進する。	○国語科主導でビブリオバトルに取り組むことができたが、図書貸出数の増加にはつながらなかった。 図書貸出数年 1200冊以上 (611⇒612⇒1008) ⇒879【C】
⑨ 適度な学習課題を与え、予習復習の奨励等、自宅での学習（授業外の学習）習慣を身に付けさせる。	○自宅学習時間が少ない状況が全く改善されなかった。 自宅学習時間平日平均 学年数相当時間以上 ⇒ 1年19分、2年19分【C】

II 進路指導

教育活動の目標 と 方策①～⑧ ◎進路指導部を中心とした組織的な進路指導の実施	教育活動の取組と 数値目標（過去3年間の推移）の自己評価
① 進路指導部が作成した3年間を見通した指導計画に基づき、進路指導部と各学年が連携して進路指導に当たる。生徒・保護者に適時適切な情報を提供し、進路意識を啓発する。安易な進路選択に流れず、高い目標を目指して取り組ませる。	○進路指導部主体での進路指導が浸透した。 ○学習指導要領改訂にともない受験事情も変化した。年内入試に対し組織的な対応を行った。 大学受験合格者数 国公立大難関私立大 4名 (2⇒2⇒4) ⇒0 GMARCH 20名 (22⇒18⇒12) ⇒6 大学入学共通テスト受験者数 120名 (192⇒159⇒94) ⇒ 135(押し提出数)【C】
② 3年間の模試計画を作成し、進路指導部と各学年が協力して模試を運営する。教科とも連携し、事前・事後の指導を行う。	○全学年の模試を進路指導部主導で実施した。 ○3年2学期の週末に行う模試が多く、科目によっては事前・事後の指導もやりきれなかった。

	<p>1月全国模試3教科平均偏差値 45以上 (1年国数英 43.0⇒43.8⇒45.0) 42.9 (2年 (英 42.9⇒41.8⇒43.0) 43.5 (国 44.2⇒43.4⇒46.1) 44.2 (数 46.3⇒44.9⇒43.2) 45.0【C】</p>
③ 長期休業中の講習を進路指導部が統括し、教科が中心となって講座を設定する。余裕をもって生徒に提示し、積極的に参加させる。	<p>○夏期講習は進路指導部が統括し実施した。 ○大学入学共通テスト後に3年対象の講座を開講した。 講座開講数 45 講座 (37⇒47⇒35) ⇒42 参加者数 延べ840人 (340⇒348) ⇒1385【B】</p>
④ 「総合的な探究の時間」を計画的に実施し、1年次の「人間と社会」において、社会に目を向けさせ、自己の在り方生き方を考えさせる。	<p>○1年の総合的な探究の時間はPT主導で実施し、「スポーツ」をテーマとして探究活動を行った。</p>
⑤ 多様な生徒の進路希望に合わせ、就職希望者や専門学校希望者に適切な情報を提供し、個に応じたきめ細かな指導を行う。	<p>○就職希望者や専門学校希望者に対して、面接指導を丁寧に行い、希望の進路実現を図ることができた。</p>
⑥ 個人面談を計画的に実施する。保護者との面談(三者または二者)を全学年で実施し、家庭との連携を図る。	<p>○保護者面談を1年生は2学期に、2、3年生は夏季休業中を中心に実施した。 保護者面談実施率 95% (91.5) ⇒93.8【B】</p>
⑦ 教科で模試を分析し、模試分析会を実施し、教科ごとに問題点を明確にして、授業改善に生かす。	<p>○業者による生徒対象と教員対象の模試分析会を実施した。 ○教員の分析による模試分析会を実施できなかった。</p>
⑧ 進路報告会を開催し、進路指導の継続性を図る。	<p>○進路指導部主導で進路報告会を3/21に実施した。</p>

III 生活指導

教育活動の目標 と 方策①～⑨ ◎基本的な生活習慣の確立 ◎交通安全士気向上	教育活動の取組と 数値目標 (過去3年間の推移) の自己評価
① 挨拶を励行して、コミュニケーションの円滑化を図る。	○挨拶できる生徒が増えたが、中には挨拶ができない生徒もいた。
② 遅刻指導を工夫して遅刻を減らす。時間を大切にし、授業を大切にす、けじめのある学校生活を送らせる。	○始業ギリギリの遅刻が目立ってきた。3年生の遅刻が全体の6割を占め、昨年度よりさらに増加した。 ○定期的な身だしなみ指導を、全学年で共通して行った。 遅刻年間総回数 2000 回未満 (1878⇒1793⇒4183) ⇒4417【C】
③ セーフティ教室や生徒会活動を通して、「SNS東大和ルール」を認識させ、規範意識の向上を図る。	○スマートフォンの使用時間が長い。SNSによるいじめに類する行為は無かった。
④ いじめ防止と体罰根絶に向けた取組を推進する。生命尊重と、多様性への理解を深め、豊かな人間性を育む。	○生徒への集会での講話や教員への研修を実施し、いじめや体罰に関する事案は発生しなかった。
⑤ 自転車通学でのヘルメット着用を推奨し、交通安全意識を高める。	○1学期は自転車通学でのヘルメット着用者が多くなったが、夏以降着用者が減少した。
⑥ 地域と連携した防災訓練を実施し、防災意を高める。	○消防署、市役所と連携した大規模防災訓練を3月に実施し、生徒の防災意識が高まった。

IV 特別活動・部活動

教育活動の目標 と 方策①～⑨ ◎部活動と学習その他の両立	教育活動の取組と 数値目標 (過去3年間の推移) の自己評価
① 生活指導部主導で各行事委員会を運営し、学校行事、委員会活動を推進し、生徒の主体性を伸長させる。	○学校行事は、大きな問題なく実施できた。生徒の委員会が活躍したが、教員の行事委員会は機能しなかった。 特別活動における満足度 90%以上 (91.8⇒89.6⇒91.9) ⇒91.6【B】

<p>② 部活動を奨励し、短時間で効果が得られるような、合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進する。部活動と学習その他が両立できる時間を確保するよう、下校時刻を守らせる。</p>	<p>○陸上競技部、男子ハンドボール部が連続で関東大会出場の結果を残した。 ○下校時間を守る意識を持たせている部活動もあったが、下校時間を守る指導が行き届かない部活動があった。学習等との両立のできていない生徒が多い。 部活動における満足度 90%以上（新規目標）⇒87.1【C】</p>
<p>③ 生徒会を中心に、地域と連携した活動を推進する。</p>	<p>○生徒会や複数の部活動において、地域での活動を実施できた。</p>

V 健康づくり

<p>教育活動の目標 と 方策①～⑥ ◎中途退学者ゼロ ◎感染症のクラスターゼロ ◎行事での怪我ゼロ</p>	<p>教育活動の取組と 数値目標（過去3年間の推移）の自己評価</p>
<p>① 特別支援教育コーディネーター、各学年、養護教諭、スクールカウンセラーの連携を図り、生徒支援委員会において、情報共有とともに、不登校、発達障害等での必要な支援策を講じる。生徒支援情報交換会を、学期に1回実施する。</p>	<p>○生徒支援委員会を隔週定例で年16回実施した。情報共有だけでなく、外部の専門機関と連携した生徒への積極的支援も実施できた。 中途退学者 0人 (1⇒2⇒4) ⇒3【C】</p>
<p>② 支援の必要な生徒には、積極的に外部との連携を図る。</p>	
<p>③ 「学校いじめ対策委員会」を中心として、いじめや暴力のない学校生活を継続する</p>	<p>○いじめに類する行為は1件も認知されなかった。</p>
<p>④ 都の指針に基づき感染症対策を継続する。</p>	<p>○インフルエンザによる学級閉鎖が1学年6クラスで発生したが、行事での感染拡大は起きなかった。</p>
<p>⑤ 授業や特別活動を通してスポーツに親しむ態度を育成し、体力テスト、球技大会や体育大会を怪我ゼロで実施する。</p>	<p>○授業や学校行事を通してスポーツに親しみ体力向上に取り組んだ。行事での大きな事故や怪我也起きなかった。</p>

VI 募集広報活動

<p>教育活動の目標 と 方策①～④ ◎効率的効果的な広報活動により、本校第一志望者を増加</p>	<p>教育活動の取組と 数値目標（過去3年間の推移）の自己評価</p>
<p>① 総務部が広報活動を統括し、計画に従って全校協力の下、広報活動を行う。学校内外の学校説明会は業務負担を分散化し、効果的効率的な募集活動を実施する。</p>	<p>○総務部が統括して広報活動を実施した。夏の学校見学会は昨年度より参加者が増加したが、秋以降は減少した。 ○学力検査の応募倍率が1.00倍で、二次募集を実施することとなった。 学校説明会来校者数 1300人 (1030⇒1077⇒1220) ⇒930 中進対倍率 1.35倍 (1.34⇒1.33⇒1.31) ⇒0.99 入学者選抜募集倍率推薦 3.5倍 (3.83⇒3.98⇒3.25) ⇒3.45 学力 1.35倍 (1.21⇒1.27⇒1.33) ⇒1.00【C】</p>
<p>② 学校Webサイトを最大限活用する。タイムリーな更新を行い、古いデータを整理し、情報発信を充実させる。</p>	<p>○説明会の申込にWebを採用した。<今週の東大和>は継続して掲載した。部活動のページ更新に部毎の差があった。 Webサイト更新回数 300回以上 (443⇒413⇒338) ⇒492【B】</p>
<p>③ 授業公開、部活動体験、学校見学会、公開講座、施設開放等により、地域に開かれた学校を目指す。</p>	<p>○部活動体験は、各部活動で多くの中学生の参加があった。 ○公開講座は、和太鼓を実施し、施設開放でテニスコートの開放を行い、多くの地域の方々の参加があった。</p>

VII 学校運営・組織体制

<p>教育活動の目標 と 方策①～⑦ ◎企画調整会議と教科主任会議を軸とした一体的学運営</p>	<p>教育活動の取組と 数値目標（過去3年間の推移）の自己評価</p>

① 教科主任会議を定例で実施し、教科の指導力を強化する。	○教科主任会議を定例で実施し、教務部を中心として各教科への情報共有を行い、指導力の強化に努めた。
② 分掌が主体となって業務を計画し、分掌と学年が連携し、学年の差が無いよう3年間を見通した指導を行う。	○各業務が分掌主導の体制になりつつある。特に進路指導についての連携が進んだ。
③ 必要に応じて主幹会議を開催し、管理運営機能を補完する。グランドデザインの見直しを行う。	○主幹会議を開催しグランドデザインの見直しを行った。
④ 会議のペーパーレス化と時間短縮により、業務の効率化を図る。業務の見直しにより、業務削減を図り、教職員のライフワークバランスを推進する。	○職員会議のペーパーレス化により会議時間が短縮できた。 ○探究P T 主導による総合的な探究の時間の運営や、校舎改築ヒアリング会等の業務増加があったが、教員の時間外労働時間は9月を除き昨年度より減少した。
⑤ ネットワークを有効活用し、生徒保護者への連絡を確実にを行う。アンケートや提出物もネットワークを活用する。	○スタディサプリを利用した保護者への配信と欠席連絡、Teams の活用により、連絡や提出等に関わる業務量の削減につながった。
⑥ 経営企画室が主体となって、分掌教科と連携し、遅滞なく予算を執行する。施設設備を計画的に更新する。	○概ね滞りなく予算を執行することができた。3年計画により下駄箱を全学年分国産木材に更新できた。
⑦ 校舎改築に向け、都と連携しながら、基本計画を作成する。引越しに向け、不用品を計画的に廃棄する。	○校舎改築において設計業者とのヒアリング会を定例開催し、基本計画を作成した。 ○計画的にかなりの量の不要薬品を廃棄することができた。

2 課題と改善策

I 学習指導

- ・ICT機器を活用した授業を多くの教員が行う状況となったが、新学習指導要領がめざす、主体的・対話的で深い学びや、観点別評価を生かしたより質の高い授業への工夫改善が必要である。全科目の生徒による授業アンケートは継続して組織的に実施する。
- ・授業満足度を測る学校評価アンケートの質問項目を変更したこともあるが、授業満足度が微減傾向である。教科主任会議・教科会を通じて、教科が主体となって授業力を向上させる。教科内での相互授業見学を増加させる。
- ・英検受験者、合格者とも増え、生徒のニーズも高まっている。授業内での英検に対応する内容を拡充し、講習も充実させる。
- ・図書貸出数が少なかった。国語科、司書教諭と図書館専門員が連携し、国語科の授業とビブリオバトルを活用し、読書活動を推進する。
- ・自宅学習時間が極めて少ない。全学年で定期考査2週間前からの学習時間の記録を実施しフィードバックすることにより、自宅学習時間の増加につなげる。

II 進路指導

- ・進路指導部を中心とした組織的な指導体制ができてきているが、1、2年生に対する指導や、保護者への情報提供がまだ十分ではない。1、2年次の指導計画を充実させ、生徒と同内容を保護者へも情報配信し、保護者を巻き込み進路意識を啓発する。1年次からオープンキャンパス等に積極的に参加させるなど具体的な進路目標をもたせ、一般入試を視野に入れさせる。
- ・年内入試の対応を進路指導部が主導して行い、一定の成果があった。大学入学共通テスト受験者数は増加したが、進路実績は昨年度を大きく下回った。上位校の一般受験に対応できる上位層の生徒を引き上げるための講習や、模試分析会を充実させ模試の活用を推進する。
- ・2年1月模試の指標を国数英の科目ごとに変更した。国数は全員ではないのでほぼ全員が受ける英語より平均偏差値は高いが、目標に届いていない。1年の結果は過去と比べて危機感を持たなければいけない数値である。教科としての分析と対策を授業計画に反映する。
- ・長期休業中の講習参加者数は数え方を延べ人数に統一したため、昨年度比はできないが増加している。講習優先の意識づけと講座内容・時期の見直しを行い、講習参加者数をさらに増やす。
- ・大学入学共通テスト後の講習を拡充し、生徒の一般受験を支援していく。

- ・1年の「総合的な探究の時間」はPTT主導で実施した。次年度は1、2学年を探究PTTが主導し、全校体制で「総合的な探究の時間」を作っていく。
- ・保護者面談は一部のクラスで実施率が低かった。保護者との連携を進め、実施率95%以上を目指す。
- ・模試の活用は進んできた。模試をさらに活用するため、教員による模試分析会を実施する。

III 生活指導

- ・遅刻回数が昨年度より増加し、1時間目途中の遅刻が増えた。遅刻指導を全校共通認識の下に行い、また、授業への意識を高めることで、遅刻を減らす。
- ・SNSに関する問題行動が発生した。スマホの使用やSNSの使用について、セーフティ教室だけでなく、HRや集会等の機会を通して指導していく。
- ・自転車通学のヘルメット着用が夏以降減少した。全校体制で指導を行い、着用率の向上を目指す。

IV 特別活動・部活動

- ・生徒の特別活動の満足度は90%を超えているが、一部の教員に負荷が集中していた。行事委員会を機能させるため、会議時間を設定し行事委員会を機能させ協力体制を作る。
- ・部活動の満足度は目標に達していない。一部で最終下校時間が守れず、学習との両立ができていない生徒が多い。顧問だけでなく、部長会を通し、生徒への意識づけを徹底する。また、生徒が主体的に考える活動を推進し、Webサイトでの発信を強化し生徒の意識を高める。

V 健康づくり

- ・次の道を考えて上での退学もあったが中途退学者が3名いた。生徒支援委員会の活動をさらに充実させ、生徒支援情報交換会を各学期当初に実施し、生徒の変調の早期発見早期対応を推進する。

VI 募集広報活動

- ・授業料無償化の所得制限撤廃と、本校の校舎改築という苦境の中、学校の魅力を発信し、仮設校舎のマイナス面を払しょくし、募集倍率の向上に努める。
- ・学校説明会を1回増やし、うち1回を土曜授業実施として、土曜日の授業公開と説明会の同時開催とする。

VII 学校運営・組織体制

- ・企画調整会議、教科主任会議を中心とした組織的な運営になり、月水朝の打ち合わせを導入し、情報の共有もされてきたが、会議等ではないところでの意思疎通が足りなかったり認識の違いがあったりした。見直しを行ったグランドデザインを下に、学校の方向性の共通認識をもち、学校運営を進める。
- ・教員の時間外勤務時間は減少したが、まだまだ多い。部活動の効率的な活動をさらに推進するとともに、業務の偏りを調整し、ライフワークバランスを改善する。
- ・令和8年度の仮設校舎への引っ越しに向け、不用品の廃棄を計画的に進める。